

次号
特集STI
HIV

多様な表現形と疾患がある性行為感染症 sexually transmitted infection (STI) に対しては、正確な診断と介入が重要となります。加えて、STI ではプライマリ・ケア医や臓器別診療科を受診することも多いため、正しい疾患の知識やアプローチの方法を知っておくことも必要です。また、多くの非専門医に敬遠されがちな HIV 感染症は、近年の ART (antiretroviral therapy) の進歩により、予後が大きく改善しています。長期管理が行われるようになった結果、HIV 感染症は極めて総合内科的な疾患になってきているといえます。AIDS の診療は専門性が高く経験が必要ですが、初診医をはじめとする非専門家が日和見感染症から HIV を拾い上げ、専門家につなげることも重要です。STI や HIV をより身近に感じてもらい、「これらの患者が自分の前に来るかもしれない」という問題意識のもと、実際に臨床現場で「ピンときて」診断し、治療につなげてもらうことを目標に企画しました。

Part 1 STI 第1章 STIの初期アプローチ

第2章 梅毒

【コラム】風土病性トレポネーマ症；いちご腫、ベジエル、ピンタ

第3章 淋菌、クラミジア

STIを症状からアプローチする

第4章 ① 口腔内病変・咽頭炎とSTI—耳鼻科医が診るSTI—

第5章 ② 排尿時の違和感・痛みをみたら

第6章 ③ 性器に潰瘍があったら

第7章 ④ 腸炎(小腸炎、大腸炎、直腸炎)から疑うSTI

第8章 Mpox

第9章 女性における陰部のトラブル・腹痛、妊婦とSTI

【コラム】各国のSTDガイドラインの比較

Part 2 HIV

第10章 HIV感染症の診断

【コラム】私が経験してきたHIVの歴史

第11章 ART概論

第12章 AIDS総論・日和見感染症の初期評価

おさえておきたい日和見感染症

第13章 ① 呼吸器疾患

第14章 ② 中枢神経疾患

第15章 ③ 消化管疾患

第16章 ④ 抗酸菌感染症(結核・非結核性抗酸菌症)

第17章 ⑤ ヘルペスウイルス関連疾患

第18章 HIVと悪性腫瘍・悪性リンパ腫

第19章 HIVの外来診療・ワクチン

【コラム】米国のHIV研修の実際

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

■ Vol.1 (2013年)

No.1 ホスピタリスト宣言

No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

No.1 腎疾患

No.2 膠原病

No.3 消化管疾患

No.4 緩和ケア

■ Vol.3 (2015年)

No.1 呼吸器疾患1

No.2 外来における予防医療

No.3 循環器疾患1

No.4 血液疾患

■ Vol.4 (2016年)

No.1 代謝内分泌

No.2 周術期マネジメント

No.3 腫瘍

No.4 他科の知識1

■ Vol.5 (2017年)

No.1 神経内科

No.2 呼吸器疾患2

No.3 感染症2

No.4 老年科

■ Vol.6 (2018年)

No.1 腎疾患2

No.2 糖尿病

No.3 肝胆脾

No.4 心不全

■ Vol.7 (2019年)

No.1 外来マネジメント

No.2 総合内科のための集中治療

No.3 抗血小板薬、抗凝固薬のすべて

No.4 内科エマージェンシー

■ Vol.8 (2020年)

No.1 アレルギー

No.2 画像診断①胸部・縦隔編

No.3 手技

No.4 病棟管理

■ Vol.9 (2021年)

No.1 膠原病2

No.2 内分泌疾患2

No.3 不整脈1

No.4 不整脈2

■ Vol.10 (2022年)

No.1 身体診察

No.2 脳梗塞

No.3 画像診断②脳脊髄編

No.4 感染症3

■ Vol.11 (2023年)

No.1 コマナジメント

No.2 透析診療のすべて

No.3 栄養療法

No.4 STI/HIV

■ Vol.12 (2024年)

No.1 輸血のすべて

2月に開催されたJSPENの学会場に足を運びましたが、栄養士の方を含めての大盛況に驚かされました。本特集で強調されているとおり、栄養療法をとりまく状況が新しいステージを迎えつつあるという空気感だったのかもしれませんが。「腎不全」の章では、「栄養というワードでの連携が求められる」とあるのが印象的です。はからずも前号から栄養療法のトピックがつながりました。そして腎不全以外でも、各論パートでは、急性期から慢性期までのスパンで多職種連携でかかわれることの醍醐味が伝わる誌面となったと思いますが、いかがでしょうか。また、「生活習慣病」の章では、減塩政策に関しての言及もありました。患者との日々のコミュニケーションの背景は、国単位での政策にまでつながっている、そういった感覚をもつことは「総合」と名のつくフィールドで活躍するホスピタリストには切っても切れない要素だと感じています。そのような視野で繊細かつダイナミックな誌面を作っていきたいと思った次第です。

● 広告 医学書院…629, 664

一覧 南山堂…770

● 南山堂…702

日本医事新報社…692

Vol.11 No.3 (第41号) 2024年5月1日発行

Hospitalist

(1部) 定価：本体4,600円＋税

ISBN 978-4-8157-2045-2

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL：http://www.medsico.jp Eメール：hospitalist@medsico.jp
振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980

文京メディカル 電話03-3817-8036

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】<出版者著作権管理機構 委託出版物>本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088、FAX03-5244-5089、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。